

通訳案内士の団体発足

札幌で設立総会「レベル向上を目指す」

通訳ガイドの資質向上を目指す任意団体「北海道通訳案内士協会」の設立総会が17日、札幌市内で開かれ

た。22日に道にNPO法人の認可を申請し、10月中の認可を目指す。通訳案内士の育成や研修などを通し、

外国人観光客の受け入れ態勢の拡充を図る。

通訳ガイドを有償で行う



には通訳案内士の資格が必要だが、来年1月の改正通訳案内士法の施行で、無資格者も有償ガイドができるようになる。外国人客の増加に伴うガイド不足の解消が期待される一方、質の低下を懸念する声もある。

協会設立はこうした課題の解決が狙い。苫小牧市の通訳案内士、本間敏彦さん

北海道通訳案内士協会の設立総会で事業計画などを説明する本間理事長（右奥）

（72）の呼びかけで、道内の有資格者ら32人が出席し、本間さんを理事長に選んだ。会員向け研修や観光モデルルートの選定に向けた調査など本年度と来年度の事業計画案を承認した。

本間理事長は「レベルの高い通訳ガイドを充実させたい」と話し、無資格者にも参加を呼びかける。道などによると、道内の通訳案内士は道内や札幌市内だけを案内できる地域限定の資格者を含め延べ625人。